



8月11日(日)～15日(木) お休みです

発行元

西村クリニック

四條畷市楠公 1-14-6

072-862-3001

盛夏の今日この頃、冷えた生ビールをぐっと飲み干しますとまさに「五臓六腑にしみわたる」という言葉の通りおなか中に浸透して爽快な気分になります。この五臓六腑とは何ぞやと言いますと、古くからの中国医学から来る内臓のことを示し、五臓とは肺臓、心臓、肝臓、腎臓、脾臓の五つを言い、六腑とは胃、大腸、小腸、胆のう、膀胱、三焦の六つを言います。ここで2つの疑問が浮かんできます。五臓の中に脾臓が入って無いのかなあというのが1つ。もう一つは六腑のうちの三焦とは実際には存在せず一体これは何ぞやということでもあります。江戸時代の医師に杉田玄白という人がおりました。玄白は中国医学を学びつつも色々な所に疑問を持っておりました。ある日オランダの解剖学書の「ターヘルアナトミア」という本を手に入れましたが、その本に書かれている図が彼が今まで学んでいたものと余りにも違う事に唖然としました。上述の五臓六腑もさることながら、それ以外に中国医学では肺は六葉であったり、肝は左三葉右四葉とされており、細部に渡って全く異なるものでありました。そこで杉田玄白は前野良沢らと共に当時罪人の処刑後、時折行われていた腑分け(解剖)を見学し、ターヘルアナトミアの図が正しく今まで学んだ中国医学の図が謝りであることが判明し、その後すぐに玄白、良沢らはこのターヘルアナトミアを翻訳しようとなりました。当時オランダ語の辞書など無く、あるのは前野良沢のわずかなオランダ語の知識と、簡単な小冊子くらいであり、まさに大海に小舟をこぎ出すが如くでありました。玄白らが始めて訳せた文章は「眉とは目の上に生じた毛なり」というものでした。ある時「鼻とはフルヘツヘンドせしものなり」という一文があり、このフルヘツヘンドで行き詰まりました。玄白らは一日中考えぬき、小冊子の訳注に「木の枝を切り落とすと跡がフルヘツヘンドとなり、庭を掃除すると塵や土が積もってフルヘツヘンドする」と書かれているのを発見し、これはきつと鼻は顔の真ん中で隆起しているからフルヘツヘンドとはうず高いという意味であろうと決定しました。こうして杉田玄白、前野良沢らは数年にわたる苦勞の末このターヘルアナトミアの日本語訳を完成させ「解体新書」として世の中に送り出しました。その後玄白らが出したこの「解体新書」を皮切りにオランダの学問である蘭学が盛んとなり、宇田川玄髓が「内科撰要」という内科書の翻訳書を表し、ここに日本の近代医学の基礎が築かれていったのであります。杉田玄白が「解体新書」を発表したのは四十代の頃ですが、その後八十三才で亡くなるまで蘭学の普及に精力的に活動した様であります。玄白は自ら養生法を7つ挙げておりますが、その1つに「動作を勤めて安を好むべからず」とあります。医師として一生蘭学を探究し続けたまさに玄白らしい言葉であり、私たちも見習うべき姿だと思います。

院長 西村 章

わかりにくいお薬のはなし☆

西村クリニックファミリーに加えていただきました130(いさお)です。どうぞよろしく願います。東大阪の病院で薬剤師をしておりますのでこれから薬のことや章先生を師と仰ぎやらせてもらっている野菜作りな日々気づいたことなどを綴っていきたいと思います。さて、読者の皆さんはクリニックでお薬をもらった時“食間に服用”とあったらどうしますか？食前や食後はわかりやすくいいのですが、この食間はわかりにくいですね？笑えない話ですが“ご飯の最中にお薬をのんだ”という方もいるくらいです。答えは、食後と食前の中間??です。もっと判りにくくなりましたか。その名の通り食事と食事の間という意味で、私は食間服用のお薬をお渡しするとき『食事を終えてから2時間後が目安です。』と説明していますが、それでもわかりにくいといわれた場合には、朝は10時頃、昼は夕方3時頃、夜は10時ころつまり寝る前でもいいですよと補足します。食間のお薬はそんなに多くありませんが、空腹で飲むと吸収が良いお薬や、胃の粘膜を保護するようなお薬に食間の服用が多いのです。それと漢方薬はお腹が空いているときの方が良く効きます。それは漢方薬が天然成分で出来ており食事の成分に近いので吸収に食事の影響を受けるからなのです。また、漢方薬にお薬は空腹状態では吸収がよすぎて薬の効き目が強く過ぎることがあるので食後に設定されているものが多いのです。このようにお薬は飲み方一つで効果が変わってきます。“聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥”といえます。わからないことがあれば薬剤師さんに遠慮なく聞くとよいでしょう。